

経営比較分析表（令和5年度決算）

熊本県阿蘇市 阿蘇医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	21	-	ド透訓ガ	救臨が感へ災輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
24,526	11,316	第2種該当	第2種該当	10：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
120	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	124
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
105	-	105

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の再編・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

- ・脳卒中・急性心筋梗塞の急性期拠点病院としての医療の提供
- ・救急医療・小児医療等の不採算部門に係る医療の提供
- ・へき地等の民間医療機関の立地が困難な過疎地域における一般医療の提供
- ・災害拠点病院として、災害時医療の提供
- ・協力型臨床研修病院として、基幹型研修病院と連携した初期研修医及び後期専門研修医の受入体制の整備
- ・糖尿病患者の多い地域であり、専門外来の開設や教育入院による重症化防止
- ・熊本県指定がん診療連携拠点病院として、専門外来や化学療法等の医療提供
- ・第二種感染症指定医療機関として、発熱外来の設置や新型コロナウイルス感染症患者の入院受入

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、②医業収支比率、③修正医業収支比率は類似病院平均を下回っている。令和5年度決算では、新型コロナウイルス感染症関連補助金減少の影響により①は16.2%減少し、赤字決算となっている。②は3.0%、③は2.4%減少しているが、医業収益については前年度並みであったため、医業費用の増加が減少の要因となっている。④病床利用率は、新型コロナウイルス感染症影響もあり45.7%と類似病院平均を19.0%下回っている。⑤入院患者1人1日当たり収益は類似病院平均を下回っているが、⑥外来患者1人1日当たり収益は類似病院平均を上回っている。⑤、⑥は、診療報酬加算に向けた取組により上昇傾向が継続している。⑦職員給与費対医業収益比率、⑧材料費対医業収益比率は医業収支の悪化に伴い、類似病院平均を⑦は5.1%、⑧は3.5%上回っている。⑨累積欠損金比率は、令和5年度決算が純損失379.5百万円と赤字に転落したことにより増加したが、類似病院平均を15.8%下回っている。

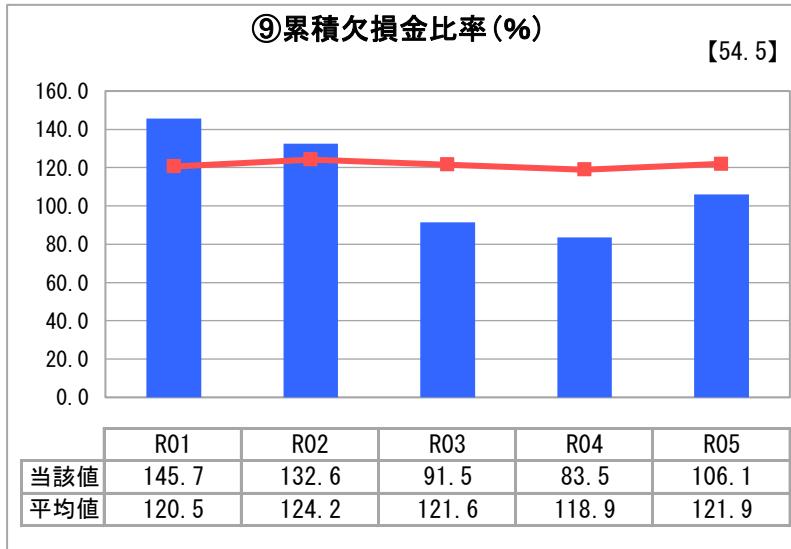
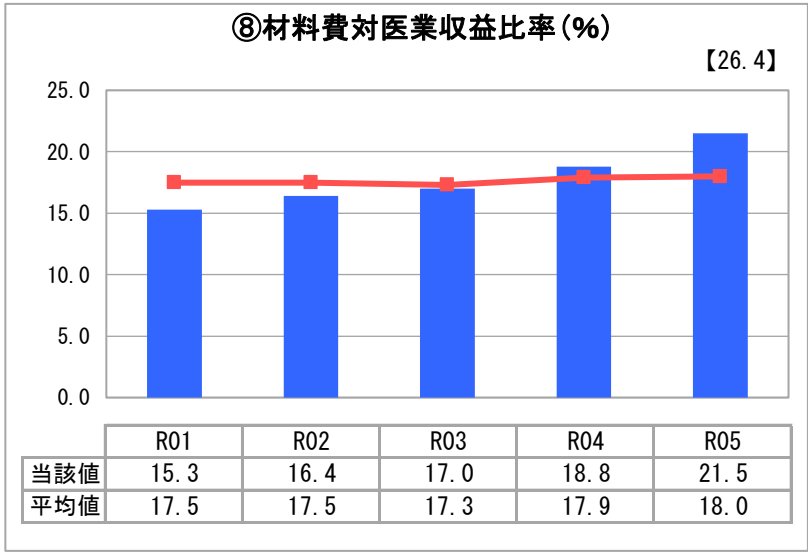
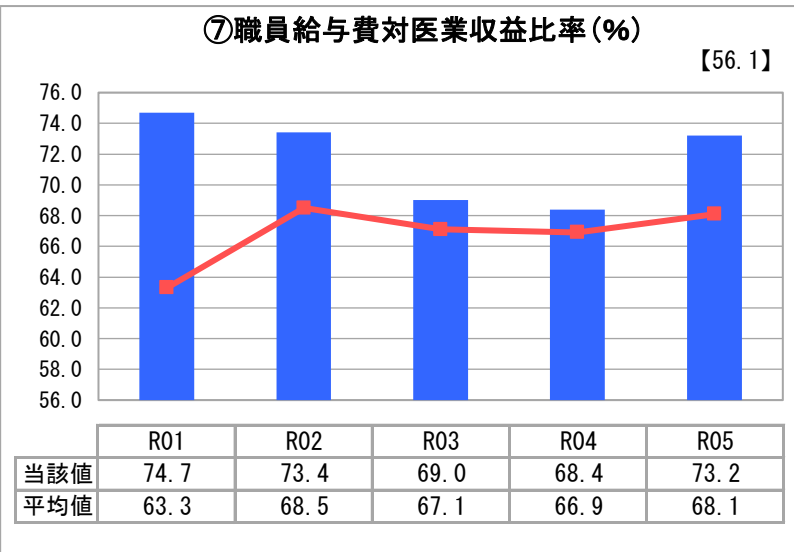
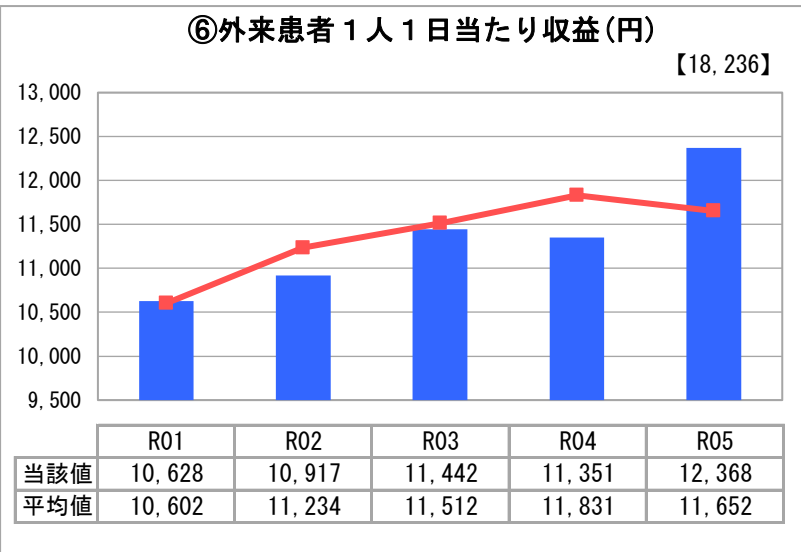
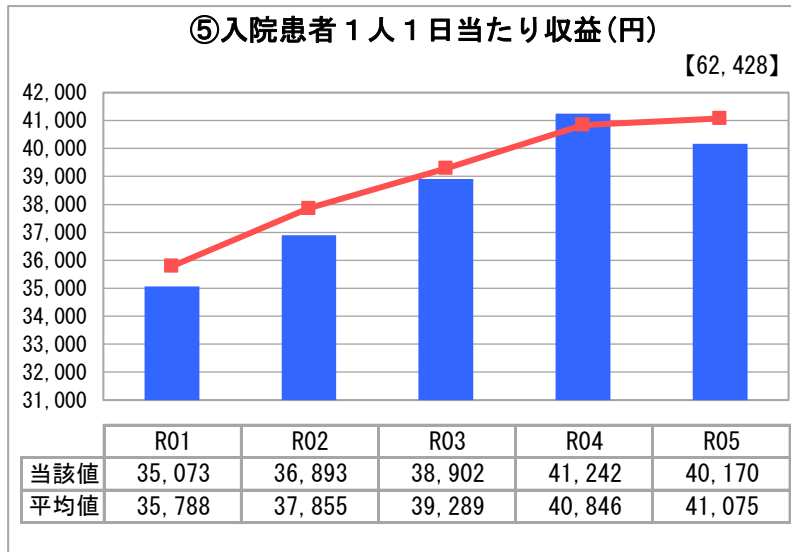
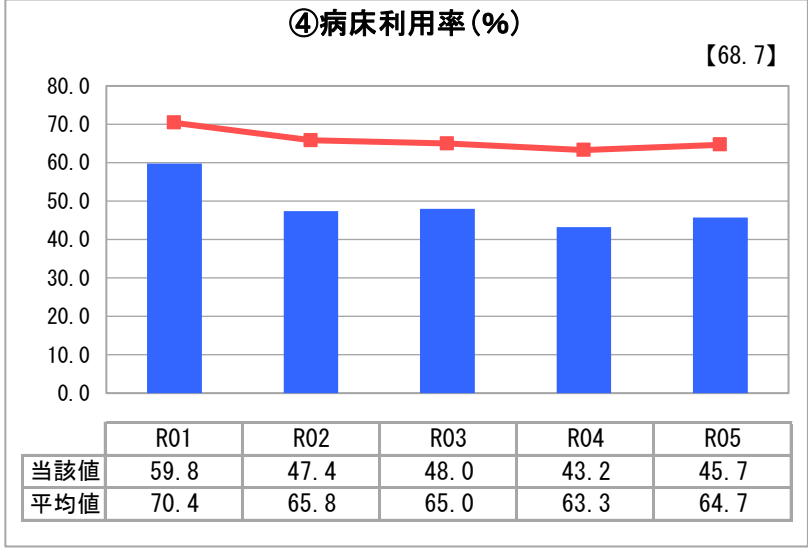
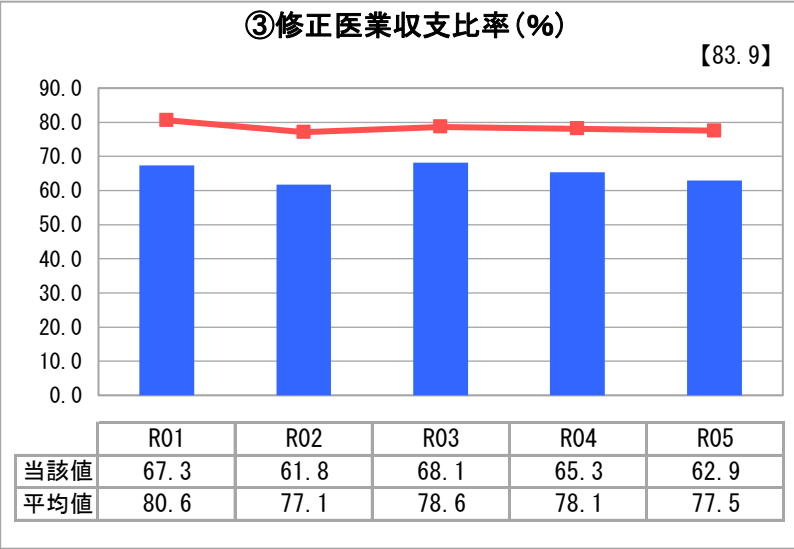
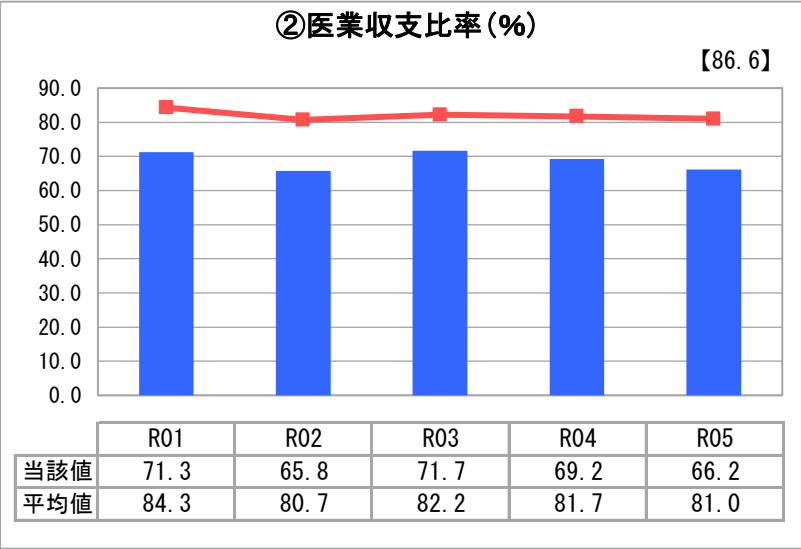
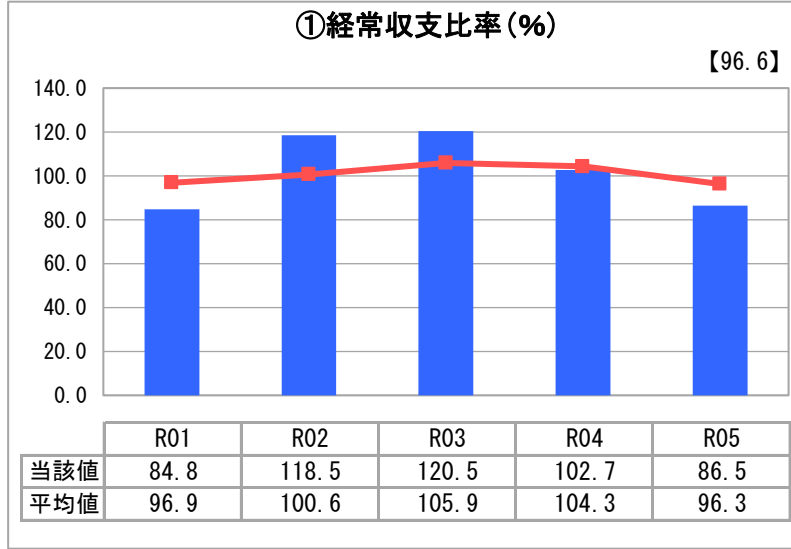
2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、令和5年度決算は45.3%と類似病院平均を13.8%下回っている。
②器械備品減価償却率は、増加傾向にあり、令和5年度決算は72.2%と類似病院平均と一致している。開院から10年が経過するため、令和6年度以降、MRI・アンギオ等の高額医療機器の更新を予定している。
③1床当たり有形固定資産は、類似病院平均を6,787,681円上回っている。

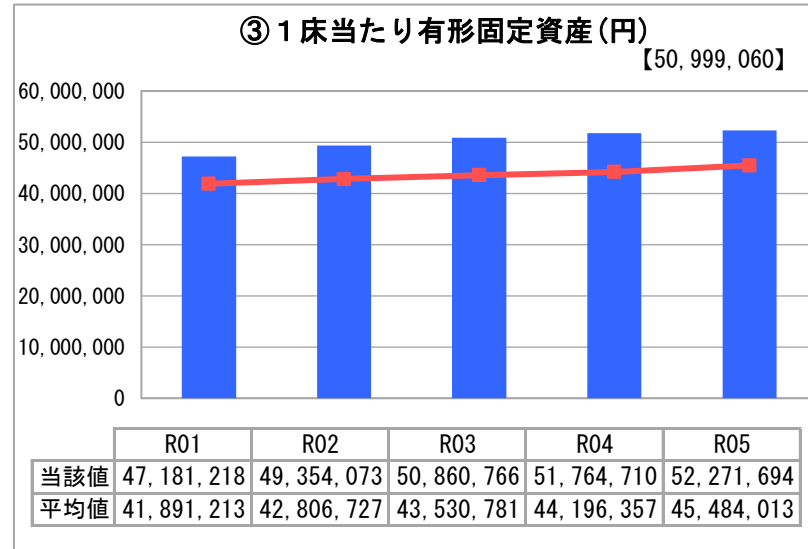
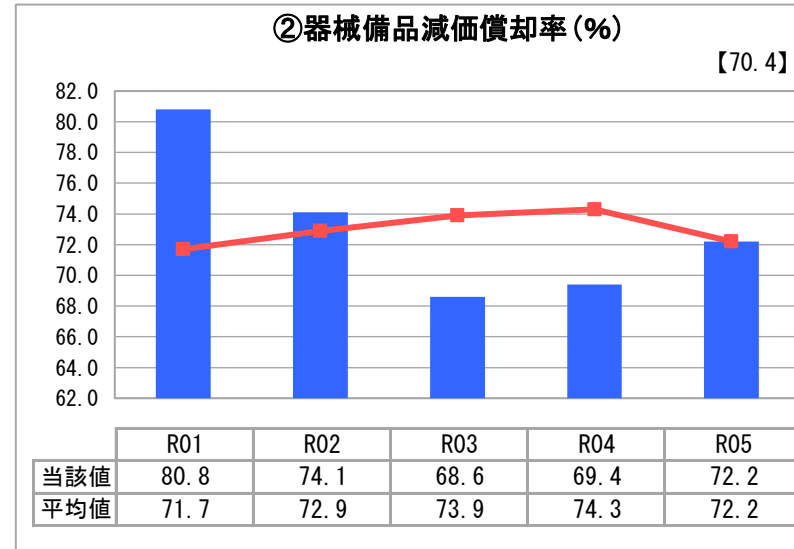
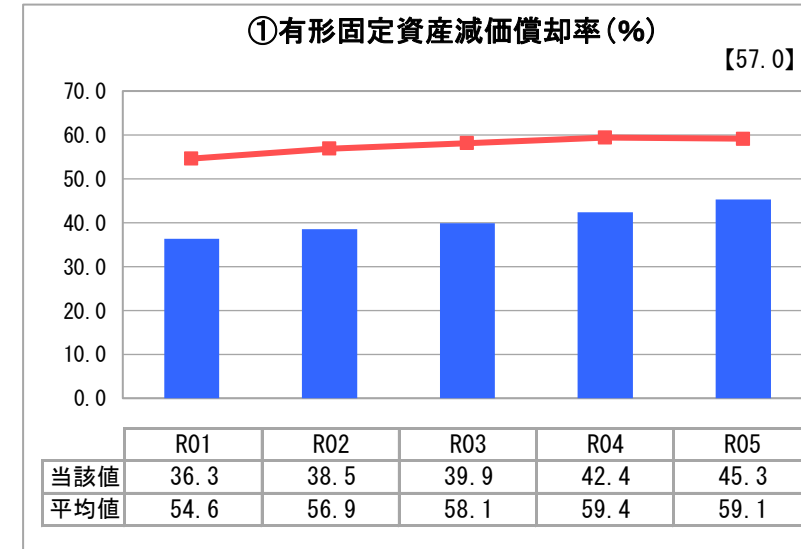
全体総括

平成26年8月の移転開院後、常勤医師の不足、移転新築に係る経費、退職引当金の増等により、純損失762百万円でスタートしたが、令和5年4月には常勤医師が12名（歯科医師1名を含む）となり、入院患者数は増加傾向にある。
令和5年度決算は、病床利用率がコロナ禍以前の状況に戻らず、また、新型コロナウイルス感染症5類移行後も継続して入院患者の受入を行ったことから病床利用率が50%を下回る状況が続いたため、純損失が379.5百万円となった。
今後も阿蘇圏域の中核病院として、常勤医師の確保を最重要課題とし、DPC制度の導入や診療報酬加算取得等の医業収益増加の対策に取り組み、また、業務委託の見直し等による経常費用の圧縮を図り、経常黒字化の再達成及び累積欠損金の削減を目指す。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。